

桜 島

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

桜島に3日16時10分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

桜島の昭和火口（南岳東斜面、標高約800m）で、3日10時18分と15時54分に爆発的噴火¹⁾が発生しました。昭和火口から噴火が発生したのは、昨年（2007年）6月21日以来です。

桜島では、過去の事例からみると小規模な噴火であっても、火砕流（火口から約1km程度流下）が発生する可能性があります。また、火口から2km程度の範囲に噴石が飛散する可能性もあります。

火口から2km程度の範囲では警戒が必要です。

○活動概況

・噴煙活動の状況（図1、図3、図4）

3日10時18分と15時54分に昭和火口から爆発的噴火が発生しました。10時18分の噴火では、噴煙が高さ1500mまで上がって雲に入り、高さは不明です。15時54分の噴火では、小規模な火砕流が発生し火口から1km付近まで流下しました。

昭和火口で噴火が発生したのは、昨年6月21日以来です。



図1 桜島 昭和火口で発生した10時18分の爆発的噴火
（昭和火口の西約5kmから撮影）

- 1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

※この資料は気象庁のほか、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平17総使、第503号）。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.htm>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。

・地震・微動活動の状況（図3）

火山性地震は、昨年10月下旬からやや多くなっていましたが、12月以降は次第に少なくなり、今年1月15日以降は、日回数0～4回とさらに少なくなっていました。また、昨年12月中旬から今年1月中旬にかけて、振幅のやや大きなB型地震が発生していました。また、3日00時39分にも振幅の大きな火山性地震がありました。

火山性微動は、昨年10月下旬からやや増加し、11月中旬以降は、継続時間が1時間を越える微動も時々観測されましたが、今年1月15日以降は0～2個と少なくなっています。

・降灰の状況

昭和火口の南から南東にかけての地域で降灰を観測しました。

・地殻変動の状況（図5、図6）

GPS連続観測による地殻変動観測では、短期的には桜島島内の伸びの傾向はやや鈍化しているように見えます。また、国土地理院によると、桜島周辺では、長期的には始良カルデラ深部へのマグマの注入によるものと考えられる伸びの傾向が続いています。

・昭和火口周辺の状況（図7）

本日実施した現地観測では、昭和火口から連続的に灰色～乳白色の噴煙を噴出しているのを観測しました。また、昭和火口の火口縁から谷沿いに火山灰が堆積しているのを観測しました。熱画像では、その火山灰に対応する高温域を観測しました。なお、噴石や鳴動等は観測されませんでした。

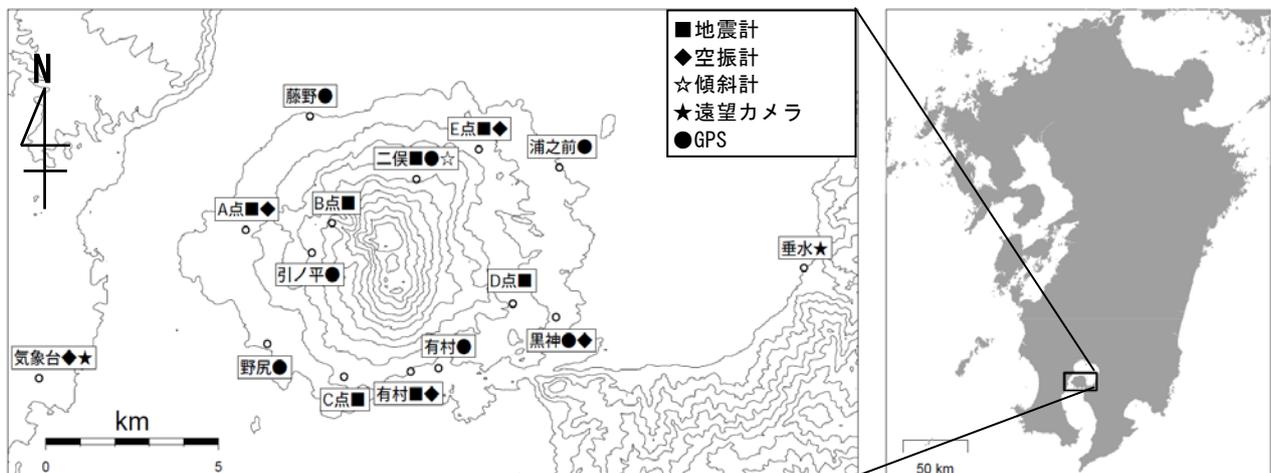


図2 桜島 観測点配置図

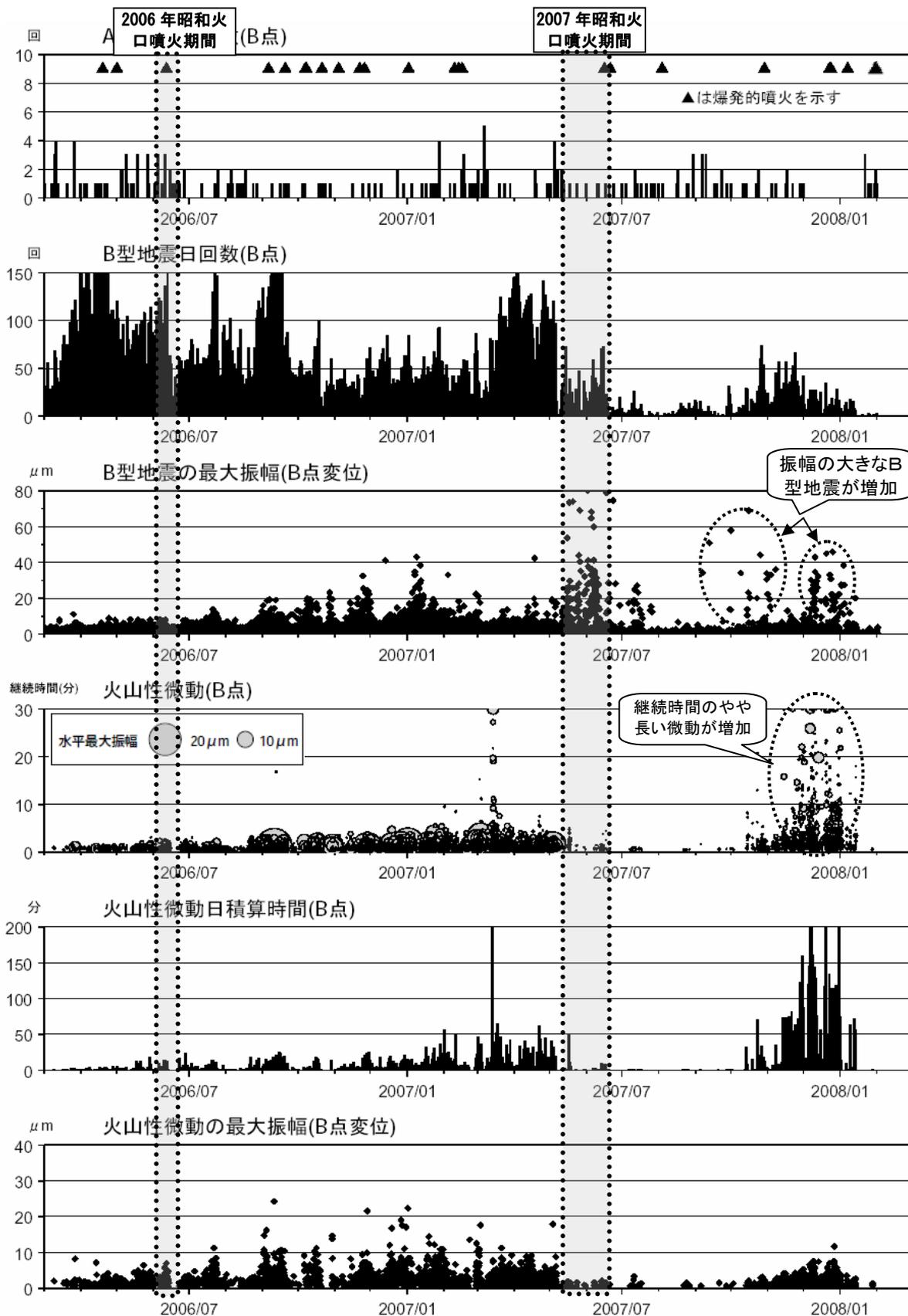


図3 桜島 最近2年間の地震・微動経過図(2006年2月~2008年2月)

- ・火山性地震は10月下旬からやや多くなっていましたが、12月以降は次第に少なくなりました。
- ・火山性微動は10月下旬からやや増加し、11月中旬以降は継続時間が1時間を越える微動も時々観測されていましたが、1月中旬以降は少なくなっています。

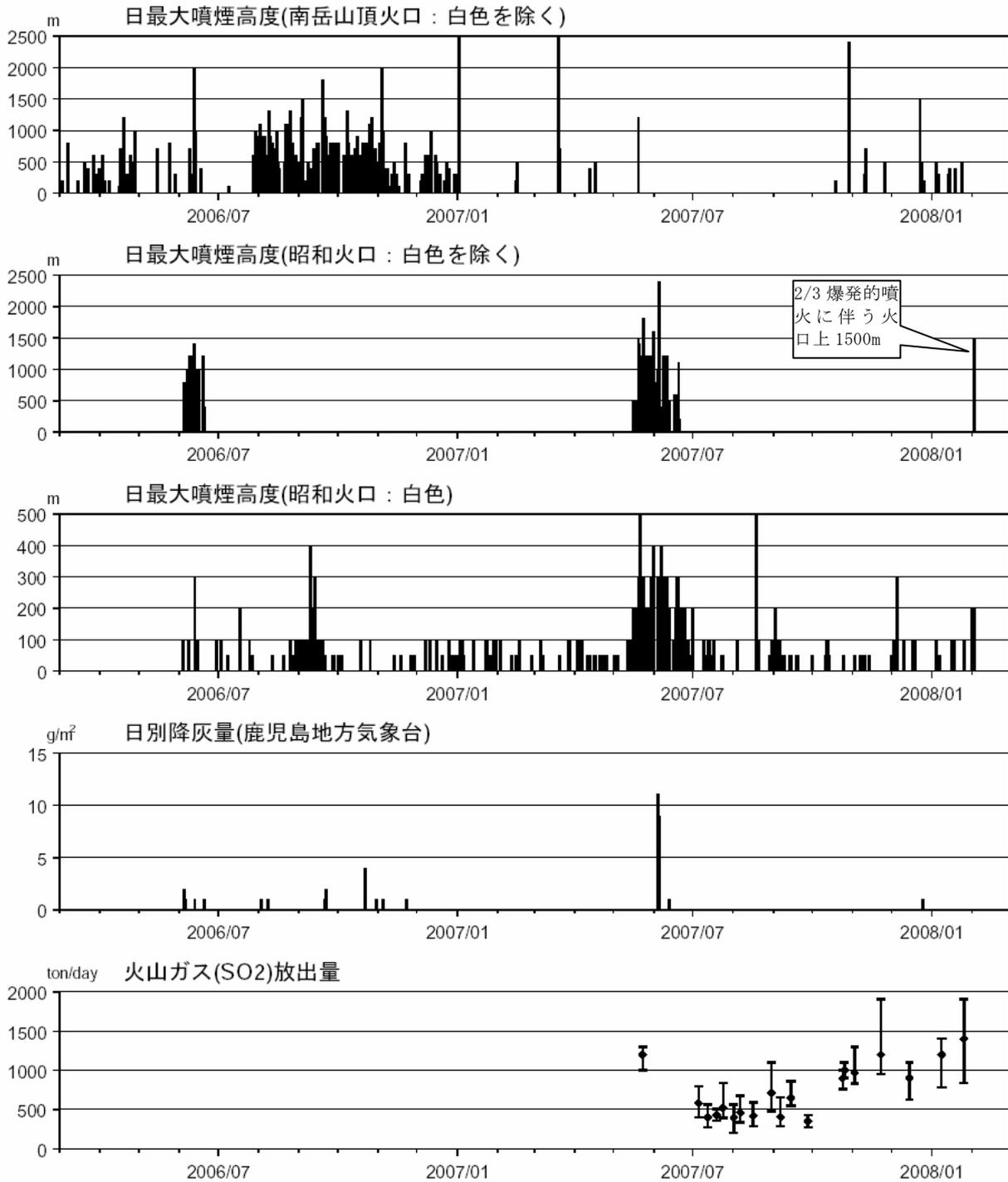


図 4 桜島 最近 2 年間の噴煙・降灰・火山ガス経過図(2006 年 2 月～2008 年 2 月)
 ・ 2 月 3 日 10 時 18 分に昭和火口で爆発的噴火が発生し、噴煙が火口上 1500m の高さまで上がりました。

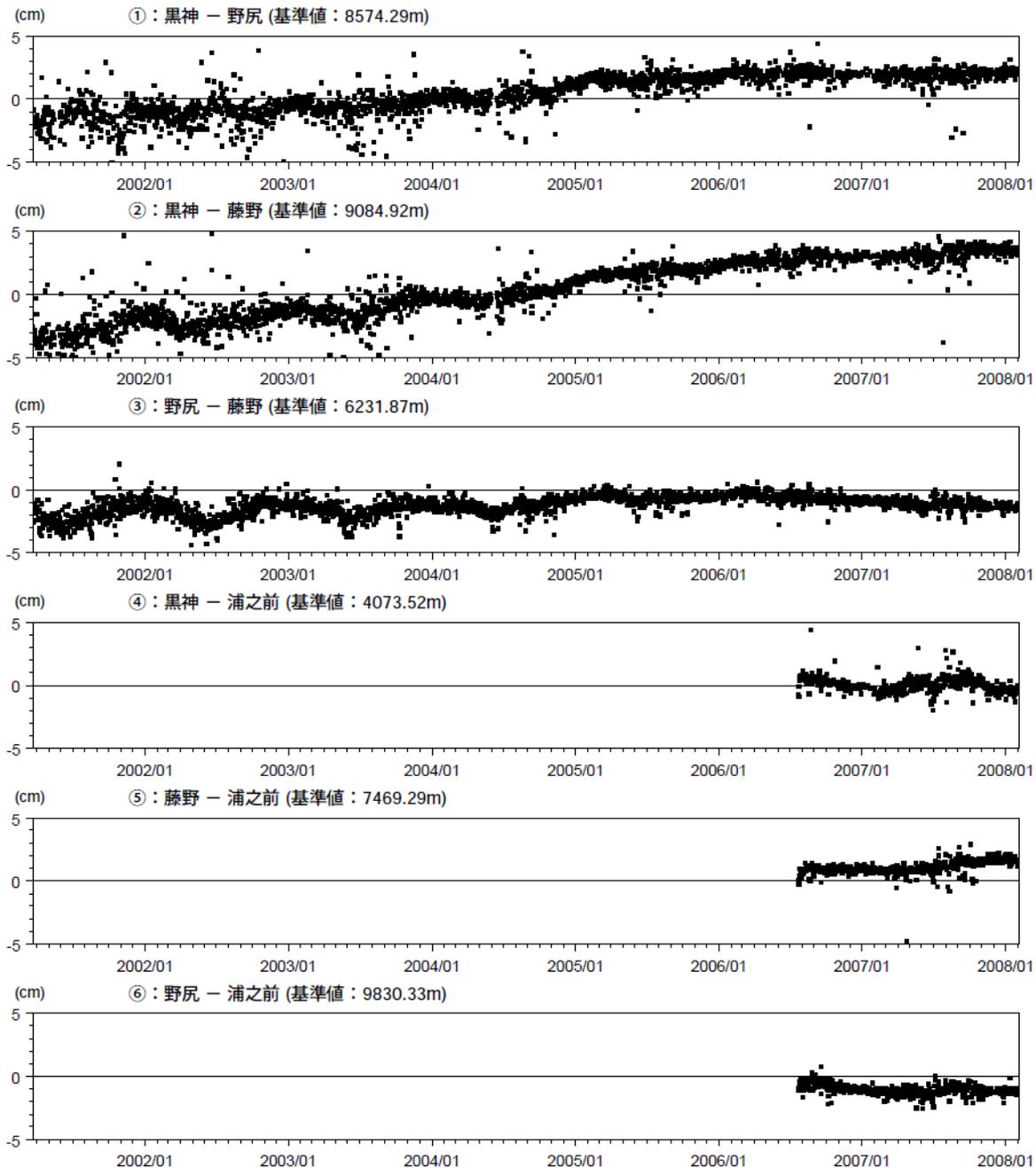


図5 桜島 GPSによる基線長変化(2001年3月22日~2008年2月)

GPS連続観測による地殻変動観測では、短期的には桜島島内の伸びの傾向はやや鈍化しているように見えます。

* 基線長変化グラフの空白部分は欠測

* ④~⑥は2006年7月から観測開始。

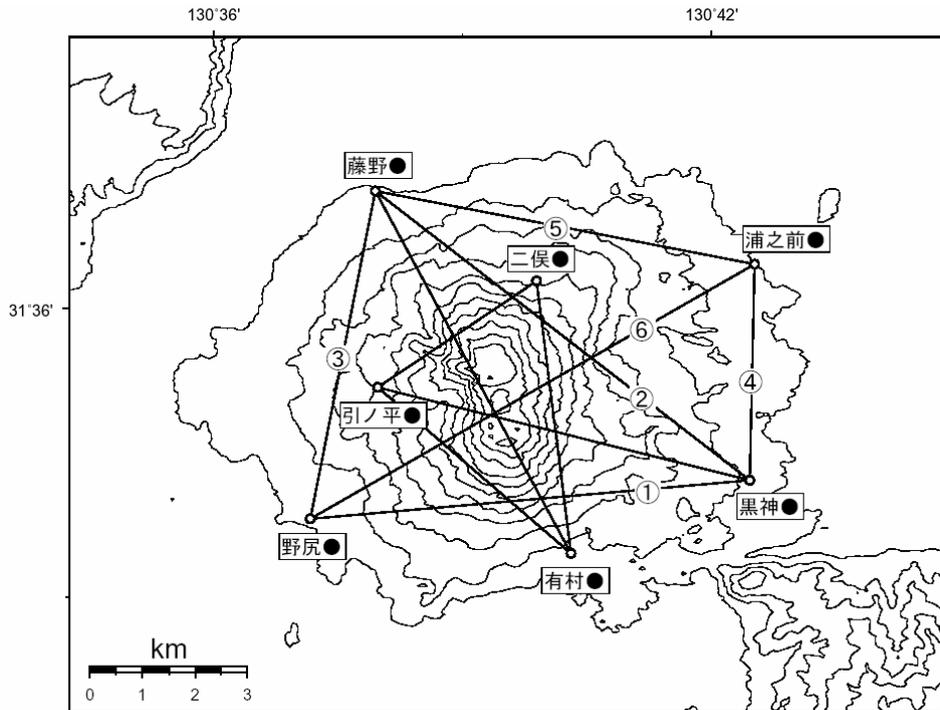
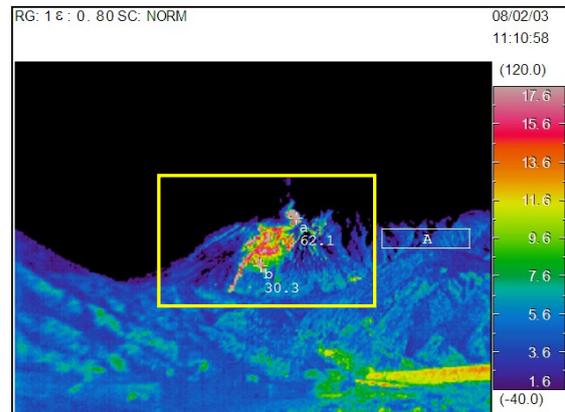


図6 桜島 GPS連続観測点と基線番号

桜島島内の7観測点の基線による観測を行っています。この基線は図7、図8の①～⑩に対応しています。



可視画像(黒神河原にて3日10時55分撮影)
(右図黄色枠内に対応)



熱画像(黒神河原にて3日10時58分撮影)

図7 黒神河原にて撮影した可視画像と熱画像

- ・昭和火口から麓に向けて谷沿いに火山灰が堆積していました。
- ・熱画像では、堆積した火山灰に対応する高温域を観測しました。